

自由民主党再要望項目一覧

平成25年度当初分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>1 教育支援センターへの支援について 教育支援センターへの県の補助が、平成23年度限りで終了となった。しかし、依然として、鳥取県は不登校出現率が全国でも高い状況にあり、県が主体となって不登校児童生徒への支援を拡充する必要がある。ついては、教育支援センターへの県の補助を復活すること。</p>	<p>県では、現在、不登校の未然防止策に重点を置きながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの配置拡充 ・スクールソーシャルワーカーの配置拡充 ・子どもと親の相談員等の配置拡充 ・モデル地域を指定し、hyper-QUを活用した早期発見、早期対応の取組推進 ・学校だけでは解決困難な不登校等に対応するための専門家の派遣などの取組を進めてきているところである。 <p>来年度は、いじめ・不登校対策に係る現場の拠点として、「いじめ・不登校総合対策センター」を設置するとともに、いじめ・不登校（体罰を含む）対策を総括する「鳥取県いじめ・不登校対策本部」を設置し、相互に情報を共有しながら一体となって、いじめ・不登校対策の充実強化を図ることとしている。今後は、各市町村、教育支援センターの動きをしっかりとフォローし、連携を深めながら、必要な施策を講じていきたい。</p>
<p>2 環日本海圏航路について 東海、ウラジオストクの地理的優位性を生かしたさらなる活用策を検討すること。</p>	<p>境港、東海及びウラジオストクを結ぶフェリー航路の地理的優位性等を活かし、境港を基点とした韓国、中国渤海地域、中国東北部、ロシア極東地域をカバーする定時性や効率性に優れたシームレスな（継ぎ目のない）国際複合一貫輸送網の構築を推進し、県内企業の国際物流競争力の向上に努める。</p> <p>さらに、シベリア鉄道との連結により、ロシア中央部、モンゴル等からの資源等の輸入についても、トリアル輸送の実施等により可能性を探りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環日本海物流円滑化事業 15,900千円
<p>3 「新甘泉」の振興について 「新甘泉」の振興を図るため、生産意欲のある県内生産者に対して、十分な宙木の供給を行えるよう体制を整備すること。</p>	<p>新甘泉は二十世紀に次ぐ鳥取県を代表する梨品種として生産者が大きな期待を寄せており、県としても早期の産地拡大とブランド化を積極的に図っているところである。</p> <p>梨の苗木は、JAが春に農家の注文をとりまとめ、全農とつとりを通じて苗木業者に発注し、秋に供給する体制となっているが、今後、更に新甘泉の生産拡大を図るため、予備の苗木を確保して秋期の追加注文等にも対応できる仕組みの構築について平成25年度当初予算で検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新甘泉」生産強化モデル支援事業 30,034千円
<p>4 学力向上について これまでの学力向上施策の成果を検証した上で、実施すること。併せて、教員の資質向上を図ること。</p>	<p>高等学校においては、昨年度、今年度と2カ年にわたり、全国的な模擬試験の結果の分析を行った。その結果、普通科9校では、上位層の生徒の割合が増加した。一方で、下位層の割合も増加しており、全体的な学力向上までに至っていない現状がある。</p> <p>生徒の学力を伸ばすためには、授業の質を高め、教員のさらなる授業力を向上することが不可欠と判断し、今年度からは最新の学習科学の知見を取り入れた協調学習への取組を進め、教員の授業力向上及び生徒の学習意欲の向上を図っている。平成25年度は、この取組を全県的に進め、各学校が直面する課題を明確にして、学校と県教委とで共有し、解決に取り組んでいきたい。</p>

要望項目	左 に対する 対応方針等
	<p>また、各学校において、全国学力学習状況調査等の結果を分析して課題を明確化し、課題の解決に向けて具体的な計画を策定して取り組むという一連の検証改善サイクルの確立が十分ではなかったと考えている。小中学校での検証改善サイクルを定着させ、継続的な学力向上の仕組みづくりを進めるため、学力向上P D C Aサイクル交付金を活用しながら、市町村との協働体制による学力向上に取り組んでいく必要がある。</p> <p>このようなことから、平成25年度から新たに鳥取県学力向上戦略本部を設置し、市町村教育委員会やP T Aとも課題を共有し、連携・協働の中で実効性のある学力向上方策を検討したり、意欲のある中学校区の課題解決型の実践を支援したいと考えており、これらの事業の成果をしっかりと分析評価し、その成果が次年度以降の事業に繋がるようにしていきたい。</p> <p>また、教員の資質向上に向けて、教育センターの機能を一層高めて、学校訪問型の研修（O J T）を充実させたいと考えており、子どもの学力を伸ばすという視点で教員の資質向上に力を入れていきたい。</p>
<p>5 信号機の設置について 信号機の設置に当たっては、住民等に説明責任が果たせるよう基準を示すこと。</p>	<p>信号機の設置に当たっては、警察庁の定めた指針に準じた鳥取県公安委員会の「信号機設置の方針」を定め公表している。</p> <p>方針では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信号機の設置により交通事故を防止又は抑止できると認められる場合 ○ 信号機の設置により自動車の混雑や待ち時間を減少させることができる場合 <p>のいずれかに合致する場合に設置を検討することとしており、具体的には、通学路、高齢者施設周辺などで交通の安全を特に確保する必要がある箇所、交通量が多く、容易に直進や右左折できない又は歩行者の横断が困難な箇所等が該当する。</p> <p>信号機設置の必要性は、箇所ごとに現地調査を行い、交通事故の発生状況、道路形状、住民の要望等を勘案し、総合的に判断される。</p> <p>地域に対してはできる限り分かりやすく丁寧な説明を行い、説明責任を果たしたい。</p>
<p>6 産業振興条例の徹底について 県の産業施策の実施に当たっては、産業振興条例の趣旨を十分に反映させること。</p>	<p>雇用創造1万人P T 会議を2月14日に開催し、部局横断的な情報の共有や産業振興施策の実施及び県予算執行において県内業者への考慮・配慮が図られているか全庁的に点検し、産業振興条例の趣旨徹底を図る。</p>
<p>※中央病院での医療事故について 中央病院でも、主治医1人で判断するのではなく、チームで対応するよう検討されたい。</p>	<p>今回、中央病院で医療過誤が発生したことについては申し訳なく思っており、今後、このような事故を起こさぬよう、チーム医療の徹底、医療体制の充実に努めるとともに、症例によっては鳥大に意見を求めていくなどして、再発防止に努めていきたい。</p>

